

特集

愛する地域を盛り上げたい！

地域を思うところ

西大村地区の古賀島町で咲き誇るヒマワリ。ニンジン畑に種をまく前に植えられ、一面の黄色い花畑は圧巻です。



Omura's power

わがまちの秘めるチカラ

人間関係が希薄になっているといわれる現代、
だからこそ、地域住民がつながり、
愛する地域を盛り上げようと活動する人たちがいます。
地域を思い、地域の力で、地域を動かす。
活動する皆さんはそこで何を思うのか。

皆

さんが住んでいる「地域」。生まれ育ったまち、これからの生活の拠点として選んだまち。皆さんにとっての「地域」はそれぞれですが、その地域には、わがまちを住みよいまちにするために活動している人たちがいます。

市では、平成23年度から「住民主導型地域活性化事業」を実施しています。これは、地域の皆さんが地域の活性化や課題の解決について、自ら考え、自ら行う地域づくりの活動を支援するものです。

各地区には、この事業に取り組むための組織が設立され、地域一体となって事業を展開しています。地域振興、防災、防犯、青少年健全育成、子育て支援、健康づくり、高齢者福祉、環境美化、歴史・文化資源の保存に関する事業が対象。地域の活性化に役立つと地元が判断すれば、宗教活動や政治活動、飲食などを除けば、ほとんどの事業が実施できます。

5月31日、市コミセンで、市長をはじめ市の幹部に対して、平成24年度事業の成果報告会が行われました。各地区の特性を生かし、まちづくりに取り組んだ成果を発表し、ほかの地区の皆さんにも参考にしてもらおうと開催しました。

今回の特集は、「地域を思うところ」。この事業を活用して地域の活性化、地域を盛り上げようとがんばっている皆さんにスポットを当て、地域に対する思いをお聞きしました。



私たちの使命は 誇れるふるさとづくり

森 忠義さん

[もり・ただよし／三浦地区振興会会長]



- 1 地域総出でにぎわう「みaura 勤作まつり」
- 2 2月に完成した「三浦かんさく会館」。これから三浦地区の活動の拠点となります。

三浦地区のこのほかの主な取り組み

- 老人クラブ運動広場トイレ改修
- 西部町公民館空調設備
- みaura 勤作まつり運営



これまで務めていただいた役員の方々の活動や苦勞があつたからこそ、みんながついてきてくれる。」そう語る森さんは現在、三浦地区振興会の会長を務めています。三浦地区を盛り上げようと、先達の思いを胸に活動を展開しています。

三浦地区では毎年10月に、同地区出身の同郷者で有名な長澤勤作さんをメインキャラクターにした「みaura 勤作まつり」を開催しています。昨年5回目を迎え、地域の秋祭りとしてすっかり定着。地域の一体感が生まれたといわれています。

また、兼ねてから切望していた、地域住民がふれ合えるコミュニティ施設「かんさく会館」の建設も、地域の理解も得られ、今年の2月に完成。「これからは地域活動の拠点として、おおいに利用してほしい。苦勞も多かったですが、地元建物を自分の手で手掛けられたことが何よりうれしい。」と森さん。今年の祭りからは、「かんさく会館」が拠点となります。

会館では、軽スポーツやカラオケなどを楽しめるほか、周辺には地域の皆さんが見ることができるよう、サクラの木を植えました。すでに、地域の憩いの場として活用が始まっています。

森さんは、「三浦を盛り上げるために活動してきたからこそ、地域の信頼を築き上げることができました。この経験を若い世代に継承していかなければなりません。自分のふるさとを誇りに思い、明るい明日の三浦を語ってほしい。私たちの使命は、誇りに思ってもらえるふるさとづくりです。」と熱く語ってくれました。

老若男女 みんなの笑顔が原動力

山口 英之さん

[やまぐち・ひでゆき／鈴田ふれあい祭り実行委員長]



- 1 回を重ねるごとに盛大になる「鈴田ふれあい祭り」
- 2 備品を入れる倉庫もいっぱいになり、「鈴田ふれあい祭り倉庫」を建設しました。

鈴田地区のこのほかの主な取り組み

- 鈴田ふれあい祭り倉庫の建設
- 小川内町災害炊き出し訓練
- ガスオープンの設置工事



長崎街道の面影を色濃く残す鈴田地区は、地域が一体となつて活性化に取り組んでいます。「さあやるぞー！」と声をかければ一致団結。まとまりが強いところが、鈴田地区の魅力です。

鈴田地区の目玉は、昨年5回目を迎えた「鈴田ふれあい祭り」。季節の例大祭や敬老会など4つの行事を、住民の負担を軽くしようと一本化し、今では子どもからお年寄りまで楽しめる地域の祭りとして定着しました。「地元」にこだわり、伝統芸能の下鈴田浮立や地元有志が演じる「スズレンジャー」などで、老若男女笑顔が絶えないそうです。

第2回からこの祭りに携わっている現実行委員長の山口さんは、一度生まれ育った鈴田を離れ、県外で暮らしていました。帰ってきて気付いたことは、「仲間意識が強い地域」だということです。「この地域のために何かをしたい。」その思いから山口さんは祭りに携わるようになりました。

現在も、若い世代とは意見交換、また参加者にアンケートをとるなど地域の声にも耳を傾け、反省や改善を繰り返しています。それは、地域の祭りをより良いものにし、地域の人たちと喜びを分かち合うため。山口さんは奔走しています。

「みんなの笑顔が原動力。その日は思いつき楽しい一日になつてほしい。祭りは続けていくことに意義があります。地域の『ふれあい』を大切にしながら、みんなが参加してアイデアを出し合い、日本一の祭りにしていきたい。」と、山口さんは意気込んでいます。これからも大好きな鈴田のまちを盛り上げていきます。

未来の子どもたちのために 残したいすてきな地域資源

加固 治男さん

【かこ・はるお/NPO法人おおむら里山村づくり委員会理事長】



大村地区のこのほかの主な取り組み

- 地区の運動会や夏祭り備品整備
- 自主防災組織用品購入
- 独居高齢者見守り活動
- 大村獅子舞獅子頭新装

- 1 市民ふれあい農園を10区画整備。「孫のためにスイカを育てているんです。」と加固さん。
- 2 手づくり石窯。おいしいピザを焼くことができます。



今 も昔も変わることなく、市の中心としての役割を担う大村地区では、いろいろな団体が地域活性化に取り組んでいます。その内容はさまざま。わがまちを盛り上げようと、地域をあげて活動が展開されています。

徳泉川内町の大村城南高校旧実習地を借用して、誰もが参加、利用できる里山を作ろうと活動する「おおむら里山村づくり委員会」の加固さんは、東京から移り住んで5年。大村の自然に魅せられ、大村湾を望む最高のロケーションのもと、さまざまな人との交流を目指しています。もともと環境問題や景観づくりに興味があつた加固さんは、このすばらしい景観の遊休地をみんなで使える里山村にしようとして活動してきました。現在、会員は45人で、広さ5ヘクタールの敷地に交流ひろばや市民農園と、近くのみかん園などを整備しています。

秋には子どもたちと一緒にみかんを収穫したり、どんぐりの木を植樹するなど、「農体験を通して自然の恵みを感じてほしい」と願う加固さん。参加者も多く、新しいふれあいを楽しんでいます。また、大村産の石と土で「石窯」をみんなで築造し、ピザづくりに挑戦しました。

加固さんは、「自然を理解しながら、自然の大切さや恵みを学んでほしい。それを体感できる場所をみんなの手で作っていききたい。ここは、未来の子どもたちのために伝え残したいすてきな地域資源です。大村は本当に住みやすいまち。このまちを市民主導で盛り上げていきたい。」と力強く話してくれました。

咲き誇る「太陽の花」で 元気を届けたい

諸正 悦子さん

【もろまさ・えつこ/ウエストサンフラワープロジェクト実行委員長】



西大村地区のこのほかの主な取り組み

- 防犯パトロールカー導入事業
- 西大村小学校防災力向上事業
- 地域全体の課題解決のための事業

- 1 今年のひまわりフェスティバルのようす。ステージイベントも充実。
- 2 あたり一面黄色いじゅうたん。見る人に元気を与えてくれます。



大 村市で人口が最も多い西大村地区。各地で特色を生かしたまちおこしが盛んです。中でも、今年で4回目を迎える「ひまわりフェスティバル」は、地域密着型のイベントとして定着し、西大村地区の地域活性化事業の「一翼を担っています」。

平成19年に立ち上げた「ウエストサンフラワープロジェクト実行委員会」。西大村地区をヒマワリでいっぱいにして、人と人とのつながりを深めようと始まりました。平成22年からは、古賀島町の農家の皆さんに、ニンジン畑にヒマワリを植えてもらうため、種を配っています。辺り一面のヒマワリ畑は圧巻で、車窓からも楽しむことができます。

咲き誇ったヒマワリは、次に植えられるニンジンの肥料とするため、まるごと耕されます。「農家の皆さんの協力のもと、あちこちに植えさせていただきました。ヒマワリの栽培は思うほど簡単ではありませんが、広い農地に植えられ、見事に咲いたヒマワリは見応えがあります。」と委員長の諸正さん。プロジェクトに携わる人のみならず、地域一体となつて取り組まれています。

この活動の「環」として行われている「ひまわりフェスティバル」。第3回目からは、森園公園へと会場を変えて盛大にイベントを開催。「初めは不安だった」そうですが、今ではたくさんの方の来場者でにぎわいます。諸正さんは、「ヒマワリは、太陽の花」とも言われ、見て元気になれる花。この活動が西大村地区だけでなくもつと広がって、夏の西大村の風物詩になればいいですね。」と笑顔で話してくれました。

地域住民が協力し合い 駅で見守り活動

佐藤 富子さん

[さとう・とみこ／富の原小学校区青少年健全育成協議会事務局長]

1 利用客が増加する竹松駅。毎年7月には、地元の夏祭り「竹松ゆかたまつり」が開催されます。
2 地域の防犯活動の拠点。「気軽に声をかけてほしい」と佐藤さん。

竹松地区のこのほかの主な取り組み

- キャンプ用具購入
- 富っこ祭り力士招へい
- ペタンク競技用品購入
- 歴史・文化資源保存用倉庫増築



人 口増加が著しい竹松地区。地区の玄関口である竹松駅の利用客も年々増加しています。駅を見守るよう

に建つ「竹松ふれ愛ステーション」。駅の乗降客はもとより、子どもたちの安全・安心の拠点として活用されています。

同ステーションは警察官立寄所として、平成16年に開所。竹松地区の防犯活動の拠点として重要な役割を担っています。

開所当初は、長年竹松駅のキヨスクとして使われていた建物を活用し、竹松・富の原両小学校区青少年健全育成協議会が協力し合って運営されてきました。

設置された頃から、この運営に携わっている佐藤さんは、「駅の周辺には交番がなく、防犯活動の必要性を感じていました。地域の子どもたちは地域で見守ることが大切。」と活動を行っています。夜間の乗降客の見守り活動をはじめ、子どもたちへも積極的に声をかけるよう心掛けています。

地域の皆さんの理解のもと、地域活性化事業で、老朽化していた建物からプレハブを新設。看板も新しくなりました。健全協の活動のほか、防犯協会やシルバー人材センターの皆さんなどが、駐輪場の安全パトロールや美化活動などを行うための拠点としてステーションを活用。年間約250人が利用されています。

佐藤さんは、「地域の目がみんなを見守っている、そんな安心・安全なまちづくりに貢献していきたい。竹松地区は発展を続けています。だからこそ、防犯活動は重要です。犯罪抑制につなげていきたい。」と意欲を語ってくれました。

地区の玄関口に 「花の散歩道」を

相田 正嵩さん

[そうだ・またか／元荒瀬町内会長]

1 初夏の郡川上流ではホタルが飛び交う萱瀬地区。
2 郡川沿いに定植されたアジサイ。約1キロ続きます。6月に入り、アジサイの花が咲き始めていました。

萱瀬地区のこのほかの主な取り組み

- アウトリーチコンサート実施
- 児童・生徒事故防止啓発
- 体育振興会機材等購入
- 萱瀬ダム運動公園水道蛇口増設



自 然の恵みあふれる萱瀬地区は、東西12キロメートルに広がる地域に9つの町内会があり、任んでいる環境もそれぞれ異なるため、さまざまな活性化に向けた取り組みが、各地区で行われています。

萱瀬地区の入口にあたる荒瀬町。相田さんは町内会長だった昨年、住民の皆さんと話し合い、「健康の増進」と「心のやすらぎ」を求め、郡川のあぜ道にアジサイを植えようと計画しました。その名も「郡川花の散歩道」。

郡川の周辺はウォーキングする人が多く、そのほとんどが竹松地区側の遊歩道を利用。なんと荒瀬側の散歩客を増やそうという思いから、11月に整備に取り掛かりました。

当初は、「雑草が生い茂る殺風景な状態」でしたが、町内会の皆さんの協力のもと草払いを行い、荒瀬側のあぜ道、約1キロの範囲にアジサイの苗4種類800株を植栽しました。

「町内のみんなの協力のおかげ」と相田さん。これから花が咲くのが楽しみだといっています。「ここは散歩するには気持ちの良い場所。秋にはヒガンバナも植えようと計画中です。花はたくさんの人を呼び寄せる力があります。萱瀬地区の玄関口としてふさわしくなるよう、町内の協力を得て維持管理していきます。」

6月に入り、植えられたアジサイが徐々に花を咲かせ始めていました。苗はまだ小さいですが、あたり二面アジサイが咲き誇れば、きっと素敵な散歩道となるでしょう。

ふるさとの価値ある歴史を 後世に継承するために

一楽 正弘さん

[いちらく・まさひろ／福重地区まちづくり活性化委員会観光部会]



福重地区のこのほかの主な取り組み

- セーフティモデルタウン事業
- イベント活性化事業
- 福重春まつり開催
- 自主防災組織防災備品整備

- 1 弥勒寺公民館にある「線刻不動明王像」に設置された歴史案内板。
- 2 おおむら夢ファーム シュシュの敷地にも線刻石仏があり、案内板が設置されました。



豊 かな自然と古い歴史を色濃く残す福重地区。実りの秋には、おいしい味覚を求めてたくさんのお客が訪れるなど、地域の魅力を上手に磨き上げながら地域活性化に取り組んでいます。

福重地区まちづくり活性化委員会観光部会委員の一楽さんは、同部会会長などとともに地域振興を図るため、長期的な計画を立て地道な活動を検討。「ないものにお金を使うより、あるものを磨き上げたほうがよい。」と、計画的に土台作りから始めることを提案しました。

まず、目をつけたのが郷土の史跡です。福重地区には、野や山に石仏が面影そのままに散在しています。ところが、案内板がほとんどなかったため、設置を計画。郷土史家の協力のもと、案内板を設置しました。歴史案内とともに石に彫られている図柄をCG加工で浮かび上がらせた画像も掲載。現在3基を設置し、今後も計画的に増設していくそうです。

「歴史価値のある石仏が、福重にはたくさんある。案内板のおかげで、価値を広く伝えることができるようになった。故郷の歴史を知ることができたらいいな。」と一楽さん。今後は、史跡と農業などを組み合わせ、近辺周遊のルートやエリアになればと考えています。

「観光に取り組んだからといって、すぐに人が集まるものではありません。ふるさとの歴史を後世に継承するための地道な活動が、やがて大きなものになると信じています。その結果、地域の活性化につながればうれしいですね。」と、一楽さんは思いを話されました。

「野岳蛇踊り」 勇壮に20年ぶりの復活

山口信幸さん
浦田照彦さん

[やまぐち・のぶゆきうらた・てるひこ／松原地域づくり推進協議会]



松原地区のこのほかの主な取り組み

- 観光活性化看板設置
- 松原そばの会広報活動
- 設備機器購入
- 事故防止・防犯用啓発看板設置

- 1 野岳蛇踊りが復活した「松原おくんち」
- 2 歴史観光の拠点の旧松屋旅館。いろいろなイベントで地域おこしに取り組んでいます。



古 くらから宿場町として栄えた松原地区。旧松屋旅館などを中心に、歴史観光に力を入れてきました。一方、自然豊かな野岳地区への移住者も多く、自然を生かした体験観光が盛んとなり、地域の活性化に取り組んでいます。

松原地区では、毎年11月に「松原おくんち」が行われ、おおいに盛り上がりを見せます。昨年、「野岳蛇踊り」を復活させ、踊りが奉納されました。実に20年ぶりの復活だったそうです。

「野岳蛇踊り」は、大干ばつの際に雨乞いのために地域で踊ったと伝えられています。以降、野岳湖の水が減った時や、奉納踊りで披露されてきましたが、担ぎ手の減少や修繕に費用がかかるため、平成5年を最後に途絶えたそうです。

地域活性化事業を受け、松原地域づくり推進協議会は、蛇踊りを「町おこしの起爆剤にしたい。」と再興を計画。蛇を新調し、南野岳・北野岳町内会の住民で構成される「龍湖会」を中心に、日々練習を重ね、松原おくんちでの奉納踊りが復活しました。浦田さんは、「人を呼び込むにはどうしたらよいかみんな考えて。町おこしは一人ではできません。地域が団結するためのきっかけづくりができたことがうれしかった。」と、復活を喜びました。

協議会の山口会長は、「松原地区は、海側は歴史観光、山側は自然観光と両極端。松原鎌もあれば、しゃくなげなどの花もある。まさに松原には『花と歴史と技術』があります。宿場まちであったように、人が集まるまちになるよう盛り上げていきたい。」と思いを話されました。

地

域活性化事業は、地域を改めて見つめ直し、

これからのまちづくりを考え、
る機会となっています。

各地区で地域を盛り上げようとして活動している皆さんの取材を終えて感じたことは、「地域を思うところ」が強いところだと思います。

「地域を思うところ」で地域がつながり、ふるさとの魅力が磨き上げ、未来の子どもたちに継承していくことと取り組まれています。

前出の「一楽さんは、福重春まつりのコンセプトを、「ふるさとの祭りを通して、子どもたちにふるさとの良い所を体感させ、やがて親になったときに、ふるさとの話を楽しくできるよう」としています。

「このような地域を思う皆さんの取り組みが、大村を活性化させる原動力となって、魅力あるまちづくりにつながっていくのではなごうでしょうか。」

特集 愛する地域を盛り上げたい！ 地域を思うところ



4月に開催された「福重春まつり」で、ポニーに子どもを乗せて手綱を引く一楽さん。子どもたちの笑顔がいっぱいでした。